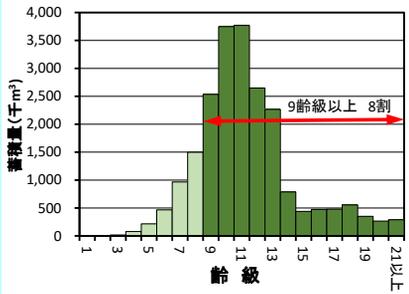


## 研究の背景

県産スギの資源量



高齢級化(大径材が増加)



## 構造利用に向けて



住宅での木材の部位別使用割合



【木材を構造利用するには】

- ① 十分に乾燥させる (縮み・狂いの防止)
- ② 強度性能を明らかにする (構造上の安全性確保)

※富山県農林業技術センター研究報告No.8 1994

⇒ 本格的な利用期が到来、大径材の利用を進めていくことが重要

## 研究成果

新たな製材品

芯去り平角材

芯去り材採取  
135 × 255mm

2丁取り

大径材  
末口直径  
40cm

120 × 240mm  
(仕上がり寸法)



従来

芯持ち平角材

芯持ち材採取  
135 × 255mm

1丁取り

中径材  
末口直径  
30cm

120 × 240mm  
(仕上がり寸法)



### ① 芯去り平角材の乾燥試験



【含水率】  
6~8カ月の天然乾燥で  
含水率の基準値 20%を  
概ね満足。

【材面割れ】  
広い面の木表側におもに  
出現、割れ幅は1mm程  
度と軽微。

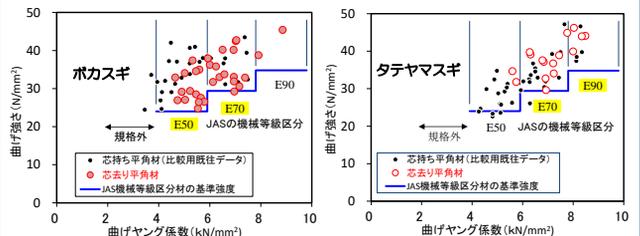


【仕上がり外観】※写真はタテヤマスギの例  
材面割れ・節とも少なく、美観に優れている。

### ② 芯去り平角材の強度試験



曲げ試験の状況



【強度】ポカスギ、タテヤマスギともJAS材基準値を満足。

## 成果の活用

良好な仕上がり  
外観



住宅の梁・桁材への  
「現し」利用



十分な  
強度性能



JASマークの例



機械等級区分装置による選別

JAS材により  
構造設計



中大規模建築への構造利用  
(県産スギ等によるJAS材利用)